



金沢大学附属図書館「お宝発見！プロジェクト」

木版画蔵書票の無料配布

— 木口木版で作られた好きな蔵書票を貰おう！ —

明治期の版画技法ワークショップです。大村研究室メンバー特製の蔵書票を無料配布します。好きなデザインを選んでください。



「婦人と南蛮船」画：川上澄生（昭和47年）

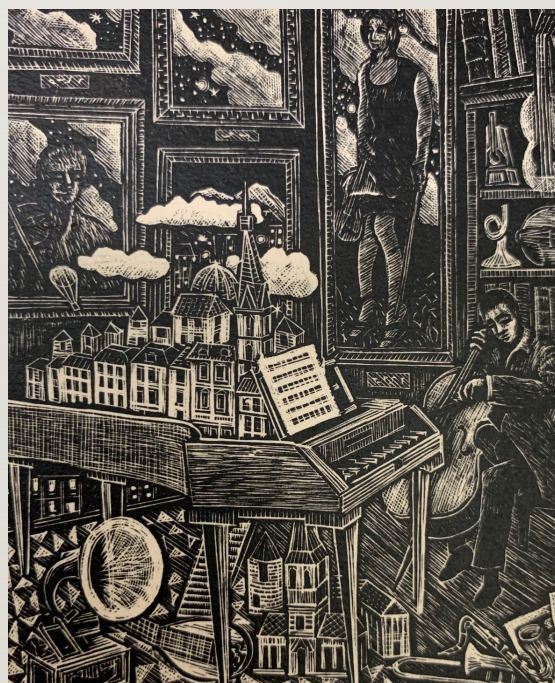
【蔵書票とは？】

本の見返しなどに貼付する小さな紙片で、所有者を明らかにする一種の版画です。一般には文字や図柄などが美しく刷られています。15世紀中葉にヨーロッパで始まり、日本では明治期に入ってきました。個人の収集品や愛蔵書などに使われることが多く、技法は木版、銅版など多様で、美術品としても高く評価されています。

こぐちもくはん

【木口木版って、なあ～に？】

硬質（ツゲや椿）な版木を輪切りにして、表面を磨いた版面を専用小刀（ビュラン）を用いて彫る凸版です。板目木版より緻密で精巧な表現ができる木版画です。別名、西洋木版ともいい18世紀末イギリスで誕生し、書籍の挿絵などに多く用いられました。日本では明治期中葉に初めて登場します。



「音楽室」画：栗田政裕（平成10年）

主催：金沢大学人間社会研究域学校教育学類
美術教育専修 大村研究室、附属図書館
お問い合わせ先：金沢大学中央図書館

etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

2023年12月20日（水）10:00～16:00

金沢大学中央図書館ブックラウンジ（ほんとかふえ。裏）